

平成29年度第1回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	平成29年7月18日（火）午前10時～午前11時25分	
会場	新潟市役所本館6階 第4委員会室	
出席者	出席委員	山賀会長、柴田委員、住吉委員、阿部委員、片粕委員、 齋藤委員、高橋まゆみ委員、中澤委員、星島委員、八子委員 計10名 (欠席 菊野副会長、高橋若菜委員、掛川委員、石井委員)
	事務局	環境部長、廃棄物政策課長、廃棄物対策課長、 廃棄物施設課長 ほか
主な議事	1 開会 2 議題 (1) 近年のごみ量の推移等について (2) 廃棄物関連施策の進捗状況について (3) 平成29年度市民還元事業予算について 3 連絡事項 4 閉会	
主な議題	<審議の進め方> それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、委員からの意見・質問を受け審議を進めた。	

<議題> (主な質問・意見等)

(1) 近年のごみ量の推移について

- **資料1参考資料** 総人口が同じくらいの静岡県浜松市の1人1日あたりのごみ量と比較すると、新潟市の方が若干多い。昨年度から雑がみの資源化の啓発にも取り組んでおり、ずいぶん減っているとは思いますが、やはり市民の意識として、地域のごみ集積場を見ているとまだまだだと実感している。このあたりを、もう少し分別して減らしていければよいと思うが。

市～ 雑がみについては、各都市とも苦労しているようだ。雑がみを専門に集める袋を作る等、努力しているところもあるので、参考にしていきたい。また、政令市の中でごみの排出量が多いというのは、地域特性があるのではないかと考えられる。日本海側の都市のごみ量を調べたところ、同じような傾向である。また、報道にも出ていたが、新潟は野菜を非常に多く摂取している。特に、枝豆や根野菜を多く摂っているところもあり、生ごみに大きく影響しているのではないかと考えられる。今後、啓発でごみを減らしていくような努力をしなければならないと思っている。

- ごみの分別や、ごみ袋の中から資源物を出そうという取組みで、先日小学校で話をしてきた。家庭により温度差があり、例えばプラマーク容器包装や雑がみを分別していると答える家庭と、分別せずごみとしているという家庭があった。捨てる前にごみか資源物かを考えて、なるべくごみを少なくしようと話をした。子どもたちがごみなのか資源物なのか分かっていると、自然とごみも減ってくるのではないかと思う。また、海岸清掃等ごみ拾いを体験することで、ごみを捨てる子も少なくなるのではないかと期待している。意識を持つということが大切なので、サイチョプレスなど、これからも色々なものに取り組んでほしい。

市～ 雑がみは非常に分かりにくいということもあり、雑がみ専用の袋を設けるなど皆さんにわかりやすく、分け方というものも啓発していかなくてはならない。

- **資料1** ここ数年横ばいだったごみ量が、昨年大きく減った要因について、お聞かせいただきたい。

市～ 細かな分析はできていないが、今月初めの新聞報道の総務省統計局のデータでは、15か月連続で家庭系の消費が落ち込んでいるという傾向が出ていた。若干影響しているのではないかと考えられる。消費動向が、節約傾向にあるのではないかと懸念している。

○ 関連して、平成27年度からの巻広域地区の分別モデル事業がうまくいっているということが、ごみ量の減少に何か関連があったのか。

市～ 分別モデル事業に96%の世帯の方に協力していただいているので、若干影響はあるかと思うが、ごみの総量からすると、巻広域地区の普通ごみと燃やさないごみ、燃やすごみはそれほど多くないので、大きく影響したとは考えにくい。各区で全体的に減少傾向がある。

(2) 廃棄物関連施策の進捗状況について

○ 巻広域地区の分別モデル収集はまだ始まったばかりだが、燃やさないごみの中に別なものが入っていたなど違反ごみについて教えていただきたい。

市～ 間違ったものが入っているという状況はあると思う。しかし、最初からすべて完璧という状況は難しい。平成20年に有料化した時も、最初は分別の間違いがあったと思われる。これから皆さんに理解を深めてもらえるよう、再度啓発等をしていかなければならないと思っている。来年4月から分別制度を統一したとしても、すぐに違反シールを貼って持って行かないというのは難しいと思うので、少しずつ分かっていただけのように、更なる周知に努めていきたい。

○ 地域のごみ集積場にポスター等を掲示したいと思うので、分別で間違いやすいものがあつたら、教えていただきたい。

市～ お知らせできるポスター等があれば提供したいと思う。

○ マイボトルキャンペーン等も年々進化して、変わってきたと思っている。職員の方が、我々や外部の意見をよく聞いて、吸収して実現していこうという姿勢が見られて、素晴らしいと思う。嬉しい対応だと思う。

○ 巻地区の分別モデル収集について、今年度から新しい地域も加わったということで、その地域のクリーンにいがた推進員の方にご助言をいただいたり、監督していただいたりしてはどうか。今まで普通ごみとして全部一緒に排出していた地域だったので、大きな目で見ただけであれば。元はできていて、おそらく分かりやすい看板等も市の方で作っていると思うので、ぜひそういう方法でやっていただきたいと思う。

(3) 平成29年度市民還元事業予算について

○ 歳出で、市民生活部所管の⑭地域活動等への支援について、具体的にお聞かせいただける内容はありますか。

市～ 所管の市民生活部からは、地域活動を行っている団体に補助金を出していると聞いている。例えば、地域の交流イベントやコミュニティカレンダー、伝統文化の保存事業、コミュニティ協議会の広報誌の作成、地域計画の策定、環境美化、防災・防犯の活動などに補助している。

- ⑭地域活動等への支援については、予算総額の9億2千万円のうち1億円と、相当ウエイトが高いと思うので、大項目だけでも記載してもらった方がいいのではないかと思う。

市～ 次回から内容を記載するようにさせていただく。

- ⑬ごみ出し支援がかなり増えているが、これは高齢化社会になっており、利用者が多くなったということか。

市～ 平成27年度より市民向け事業実施の都度、制度周知を図り支援団体を募った結果、登録団体数が伸びたことも一因と考える。新潟市は市民還元事業として先行してごみ出し支援を実施していたが、介護保険制度でも同種のもののできたため、介護保険の制度と整合性を取りながら、必要などころに支援していくことを考えている。

- ⑬ごみ出し支援については、2025年に団塊の世代が急増する時代に入ることを見据えると、増えていくことを視野に入れて対策を考えていかなければならないと危惧している。

市～ 委員ご指摘の通り、需要がなくならないことは間違いない。介護保険という全国統一の制度の中で同種のもので導入されている。介護保険の制度と整合性を取りながら、市民還元事業として必要などころに支援していくことを考えている。

- 市民還元事業のごみ出し支援と、介護保険の制度の違いが分からないので教えていただきたい。

市～ 介護保険の制度は開始したばかりで利用団体も少ないようだが、メニューの中にごみ出し支援を含む地域支援事業がある。新潟市は市民還元事業としてかなり先行して実施してきているので、介護保険の制度と整合性を取りながら、ただし、今現在、支援を必要としている方がいらっしゃれば積極的に市民還元事業で支援していくことを考えている。

傍聴者

3名